

HISTORY OF IRRSG 2005～2014

2005 年～不定期に例会を開催。4～5 人程度の同志集会。

2006 年～ 同上（名称だけは国際リサイクル研究会に）参加者は 10 人程度

国際リサイクル研究会（IRSG）の会長に DOWA エコシステムの加藤（秀）氏。

このときすでに現在の首脳陣である AMJC の中村（繁）氏、JFE スチールの民田氏も集会に参加していた。

2007 年春～赤坂のベルビー赤坂 8 階の花回廊で約 30 名のパーティを開催。

現在の I R R S G の主要メンバーが集結。

2007 年夏～赤坂の「ルシャレの台所」にて、約 40 名のパーティを開催。

おぼろげながら会長は J F E 民田氏、副会長に A M J 中村氏に。監査役として秋田大の柴山先生、早稲田大の大和田先生。このときのスペシャルゲストは国連大学の谷口先生と東北大学と DOWA 兼務の白鳥寿一さん（人工鋳床提唱者の御一人）。

* なかなか盛り上がってきたため、本格的に講演会もつけてやったらどうか？という意見が多寄せられたため、これ以降、講演会 + 懇親会という体裁をとる。

2007 年 10 月 21 日 IRRSG at はあといん乃木坂～参加人数 60 名

*この会から会名を国際レアメタル&リサイクル研究会（IRRSG）に改名。

（基調講演）

- ① コバルトと新エネルギー～三井物産(株)ステンレス原料・新金属部 榎本氏
- ② 製錬リサイクルの現況～DOWA エコシステム(株) 環境ソリューション室長 加藤秀和氏
- ③ レアメタル四方山話～アドバンストマテリアルジャパン(株) 中村繁夫氏

* 非常に密度の濃い講演 3 本で大変に盛り上がる。この会から東大・生産研の岡部先生や経済産業省非鉄金属課の岩野課長（当時）らも参加されるようになる。

2008 年 2 月 21 日 IRRSG at はあといん乃木坂～参加人数 110 名

（基調講演）

- ① 日本のレアメタル政策の展開～経済産業省製造産業局非鉄金属課 岩野宏課長
- ② わが国の資源蓄積推定～（独）物質材料研究機構（NIMS）材料ラボ長、元素戦略クワスター長 原田幸明氏

（パネルディスカッション）

～わが国の資源問題についてなど～

パネラー・・・①国連大学・谷口先生、②NIMS 原田氏、③経済産業省・岩野課長、

④DOWA エコシステム・加藤氏、⑤AMJ・中村氏

* 基調講演でもエネルギーギッシュなプレゼンを展開していただいた原田先生が P D でも参加者の

DominicBoyle 氏 (from WOGENresources) と活発な議論を戦わしおおいに盛り上がる。
懇親会でも飛び入り参加の方々多く、特にナストーアの藤田氏、怪気炎をあげる。ポンド磁石業界から
東京フェライトさん、浜野先生らが初参加。

2008年6月6日 IRRSG at はあといん乃木坂～ 参加人数 100名

(基調講演)

ステンレス原料を取り巻くいくつかの話題～新日鉄住金ステンレス(株)原料室長久保雄司氏 ステンレス
原料を取り巻くいくつかの話題～新日鉄住金ステンレス(株)原料室長久保雄司氏 ステンレス原料を取り
巻くいくつかの話題～新日鉄住金ステンレス(株)原料室長久保雄司氏 ステンレス原料を取り巻くいくつか
の話題～新日鉄住金ステンレス(株)原料室長久保雄司氏

(パネルディスカッション)

～人材育成、資源問題に対する誤解など～ ～人材育成、資源問題に対する誤解など～ ～人材育
成、資源問題に対する誤解など～ ～人材育成、資源問題に対する誤解など～

パネラー・・・①早稲田大 大和田先生、②秋田大 柴山先生、③東大 岡部先生、

④新日鉄住金ステンレス(株) 久保氏、⑤AMJ 中村氏 * 飛び入りで菅原直之君

* アカデミックかつグローバルなステンレス原料に関する NSSC 久保氏の基調講演は予定時間をやや
オーバーするほどの熱演で、状況を知っている方も知らない方も皆聞き入っていた。パネルディスカッション
はこれまでの I R R S G 会ではやらなかったような大きなテーマを取り上げた。元々、IRRSG 会は異業
種ミックス、ボーダーレスの会で、幅広い話題を取り上げることを是としているため、賛否両論ありつつも着
実に成長していることが確認された会であった。

2008年11月7日 IRRSG at 明治大学・紫紺館～参加人数 約 80名

(講演)

①「三井金属グループの貴金属リサイクルについて」

講師：三井金属鉱業(株) 金属・環境事業本部 宮本成紀氏

②「小型家電リサイクルの意義と展開状況」

講師：東北大学 多元物質科学研究所 中村崇教授

③「レアメタルビジネスの最新動向と2009年度の市況動向予測」

講師：AMJ (アドバンストマテリアルジャパン(株)) 代表取締役社長 中村繁夫氏

* 三井金属の宮本さん、東北大学の中村崇教授は IRRSG 会初登場。リサイクルビジネス
に力を入れている三井金属さんは会社の歴史から各事業の説明、リサイクルビジネスのフォーメーションま
で懇切丁寧に講演された。東北大学の中村教授は秋田から始まった「小電リサイクル」の提唱者であり、
現在ではレアメタルリサイクルだけでなく、国の重要な資源政策にも関係されている先生のお一人。
IRRSG 会の副会長として存在感抜群の AMJC 中村社長は世界同時金融危機の現在からレアメタ

ル市場を分析。ベースメタル、鉄鋼材料、機能性材料、電子材料など分野別金属材料の市況変動から、かねてより提言している新備蓄構想案、元素別の市場動向を解説された。

2009 年 1 月 23 日 IRRSG at 学士会館（東京・神保町）～参加人数 80 名

（講演）

① 「インドの社会情勢および産業動向」

講師：（財）海外職業訓練協会（OVTA）の高山憲二氏（元三井金属）

② 「最近の国際商品市況を取り巻く環境（+世界のステンレス鋼需要動向）」

講師：新日鉄住金ステンレス(株)（NSSC） 原料室長 久保雄司氏

③ 「中国人のビジネスカルチャー」

講師：グローバルビジネスサポートマーケティング代表の安見昭氏

* 2009 年第 1 回目の IRRSG 例会はまたまた場所を移して神保町は学士会館へ。

クラシックかつ威厳ある面容は実力派揃いの IRRSG 会にぴったりだということで、事務局長棚町が企画。NSSC の久保氏はこの時で IRRSG 講演早くも 2 回目の登壇。08 年秋からの資源価格大暴落、需要縮減の波はステンレス業界にも及び、業界は不振の極みにあった。そのなかで、久保氏に講演を依頼したのは、なにゆえに最悪の環境ができてしまったのかということを検証するためであった。OVTA の高山氏は IRRSG 初登場。いささか緊張感ある講演ではあったが、逆に新鮮にも映り、新しいキャラクターが IRRSG 会に登場した。グローバルビジネスサポートの安見氏も IRRSG 初登場。氏が JABM（日本ボンド磁性材料協会）で講演されていたものを棚町が見聞し、その面白さゆえに講演を依頼し、IRRSG 登壇となった。

09 年第 1 回例会は告知期間が短く、正月明けということもあり、思ったほど参加者が伸びず。前回の 08 年 11 月の例会に続いての 100 人割れで首脳陣、事務局ともども先行きにやや危惧を抱く。

2009 年 6 月 4 日 IRRSG at 学士会館（東京・神保町）～参加人数 140 名

メインテーマ「クルマと電池とレアメタル」

（講演）

①「商業車におけるハイブリッド車の動向」

講師：(株)いすゞ自動車研究所 技術参与 賀川義雄氏

②「二次電池の現状と今後の展開」

講師：（独）物質材料研究機構 高田和典氏

③「リチウム資源および市場分析～チリ SQM 社訪問記」

講師：神鋼リサーチ(株) 持続型社会システム研究部 北浦伸幸氏

* パーティ形式の IRRSG 会（前身の IRSG 会含む）から数えて通算 9 回目となる IRRSG 例会、2009 年第 2 回例会は前回と同じく学士会館で 6 月 4 日に開催した。講演内容が

「クルマと電池とレアメタル」という句の内容であったこと、前回までの反省？を活かし、HP の充実、告知の改善などを行った結果、想定を大幅に上回る 140 名という参加者に恵まれた。もちろん現在までのレコードである。それぞれが重要な講演であると同時に、阪和興業の北社長様が初参加されるなど、来場されたお客様もVIPが多数おられ、講演会会場、懇親会会場ともに入りきれないほどの盛り上がりとなり、首脳陣、事務局ともども胸をなでおろした次第であった。

IRRSG 初登場の(株)いすゞ自動車研究所の賀川氏の講演から会場は早々と埋まった。内容も非常に貴重かつ分かりやすいもので、講演終了後も積極的な熱い質問が飛んだ。賀川氏のキャスティングに尽力いただいた GBMS の安見代表に改めて御礼申し上げたい。物質材料研究機構 (NIMS) の高田氏も IRRSG 初登場。高田氏のキャスティングには IRRSG 会と連携関係にある「(社) 未踏科学技術協会」の一助があった。未踏科学技術協会事務局の方々に改めて感謝の念を述べたい。

神鋼リサーチ(株)の北浦氏も IRRSG 初登場。実は北浦氏は講演が初だが、IRRSG 草創期 (10 人未満のころ) のころから参加している IRRSG のレギュラーメンバーである。氏のリチウム資源の話とチリ SQM 社訪問記はふんだんに映像を使い、エンターテインメント性の高い講演で皆を楽しませた。

2007 年 : 4 月に第 1 回例会、7 月に第 2 回の例会開催。第 2 回例会は参加者が 40 名を超え過去最大規模となる。同年 10 月の第 3 回例会では 60 名を超え、懇親会とあわせて講演会を開催。四谷、お茶の水などで会を行う。

2008 年 (発展期) : 会名を「国際レアメタル&リサイクル研究会 = IRRSG」と改めHPも作成。レアメタルブーム、資源バブルにも乗り、同年の年間参加者数は 400 名を超える。内容的にはレアメタル、レアアースが中心。

2009 年 (安定期) : この年から定期例会の場所を学士会館 (東京・神保町) に定める。リチウムイオン電池、エコカー中心の例会で毎回 100 名~150 名の参加を記録。IRRSG 活動も定着。

2010 年 (成熟~飽和期) : 例会は 4 月と 12 月のみにとどまるが、会の存在感変わらず。

2011 年 : 同年 3 月の東日本大震災の直後、4 月に放射能問題をとりあげ久々に 130 名の参加。9 月は初のケミカル系で硫酸と肥料原料市場メインの例会を行い、ケミカル系の方々中心に 100 名の参加。12 月は国際金融、コモディティの先行きで三菱 UFJ モルガンスタンレーの佐治さんがご講演。放射能問題は東京大学の鈴木崇彦先生、硫酸市場についてはアシズの松下常務 (当時) が講演。POSCO-Japan の車さんが Posco のマグネシウムとチタン事業について講演。

2012 年 (倦怠期) : レアメタルブームも終わり、各地で様々な講演会が行われるようになったこともあり IRRSG 会もやや倦怠期に入る。この年は結局 1 回のみで終了。しかし講演はなかなか豪華で元経産省非鉄金属のボス的存在だった塚本さんと DOWA 小坂の川村さんが行う。

2013 年（第 2 次成長期）：2012 年は完全にやる気を失っていた IRRSG 会が反省を経て再び活発化。2 月、5 月、7 月と 3 回の例会を開催。

2 月はシェールガスとボーキサイトおよびレアアースの講演。ボーキサイトからレアアースを採取し、高純度アルミナを製造するという事でカナダの ORBITE 社が講演。

5 月は今（2014 年夏）を先取りで ZINC SPECIAL。三井金属資源開発の藤井さん、MS ジンクの丹野さんに講演。MRA の新村さんが IRRSG で初めてご講演。

7 月の第 3 回は小型家電と家電雑品問題、対しての国内リサイクルの実力について議論を展開。当時、家電雑品船の火災問題が各地で発生。環境省も対策に乗り出したときで、基調講演を環境省の眼目（さっか）さん、アジアの資源循環について JETRO の小島さん、国内リサイクル側で名古屋から ARBIZ の佐野さんに講演いただき、おおいに盛り上がる。

2014 年：2 月 18 日に通算 19 回目の講演会を学士会館で開催。

東京製鐵に CAR TO CAR リサイクル、三井金属の太田さんに非鉄金属リサイクル、太平洋セメントの花田さんにセメント業界でのリサイクルとリサイクル中心の講演会で参加者は 80 名を越す。